

「保育所の自己評価」 みどり保育園 令和1年度

1. 保育理念・保育観と保育計画・指導計画について

●今後の課題とするべき点

・指導計画を作成する時には「保育所保育指針」を読んで参考にしているが、その理念を深く理解し、日頃から保育内容や保育方法を考えるときのガイドラインとすることに関しては、まだ不十分である。

・園の保育理念や方針・目標、自分自身が作成した保育計画のねらいや内容を保護者に上手に伝えきれていないことがある。

◎良くできている点

・自分の保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていることを認識し、子どもの最善の利益を考慮して子どもの生活と健全な発達を保障するように日々努めている。

2. 保育の内容について

ア) 乳児保育

◎良くできている点

・寝返りができない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢・掛け布団・呼吸等の確認をしている。

・保護者との連絡ノートを活用するなどして、保育園以外での子どもの様子も把握するように努めている。

イ) 1・2 歳児保育

●今後の課題とするべき点

・わがままで「いやだ」という子ども・自分の思い通りにならないと怒ったり泣いたりする子どもに対して、丁寧に話して聞かせたり、気持ちを切り替える時間を取り、ゆったりと待つこと、またそのような子供の気持ちを肯定的な方向に向けることに関して、保育者が十分にできない場合があるので、園全体で取り組む必要がある。

◎良くできている点

・着替えや食事などの時に、その子に応じた手助けや言葉かけをしながら、時間を要しても自分からしようとする気持ちを大切にしている。

・食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気ですごせることを第一に考えている。

ウ)3 歳以上児保育

●今後の課題とするべき点

- ・「早く・・・しなさい」「だめ」「いけません」などの指示・命令する言葉を使うことがあるため、今後は、「・・・したら～ができるよ」のような肯定的な表現を使うようにする。
- ・保護者に対して、発育期にある子どもの食事の大切さに関心を持ってもらう努力が不足しているので、園全体で取り組んで行く。

◎良くできている点

- ・子どもが緊張したり、不安を感じた時には、温かく受け止め、親のように接するなど家庭的な雰囲気づくりに心がけている。
- ・声の大きさに気を付け、わかりやすく温かな言葉づかいでゆっくり話すようにしている。
- ・子どもが話かけてきた時、ゆっくり聞いて会話したい気持ちを満たし、言葉で伝えあう場を大切にしている。

エ)障がい児保育について

◎良くできている点

障がいを持つ子どもそうでない子ども「共生」「共育」の観点から、当たり前のこととして共に保育するという考えを皆で共有している。

オ)行事

●今後の課題とするべき点

- ・子ども達が期待を持って行事に参加できるように、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育現場を用意することに関して、不十分な時がある。

◎良くできている点

- ・行事を保育に取り入れるときには、「行事が、子どもの健やかな育ちにつながる」ということを意識している。

3. 保健活動・安全管理

●今後の課題とするべき点

- ・子どもが何らかの異常が見つかった場合により適切な処置ができるように、嘱託医の指導を受けるなど、日頃から学習をしているかについて十分とは言えない状況である。研修への参加等も促していく必要がある。

◎良くできている点

- ・そのまま見過ごしたら明らかに危険な行動には、理由を説明して「いけません」「やめなさい」などの言葉で、はっきりと制止している。

4. 保護者との連携

●今後の課題とするべき点

- ・保護者との連絡帳について、保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしているかについて、改善の余地がある。
- ・保護者同士が相談相手になれるよう、保護者がお互いをよく知り合う機会を設ける努力が不足している。

◎良くできている点

- ・たとえ自分の保育に批判的な保護者であっても、対立せずに受容し、意見や要求を聞こうとする姿勢を持っている保育者が多い。

5. 地域の子育て支援

●今後の課題とするべき点

- ・子育て相談を実施する場合に連携するべき機関(保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等)の機能について、全職員がよく知っている状況にはなっていないため、情報収集と周知徹底に努める必要がある。

6. 保育園の職務・役割分担

●今後の課題とするべき点

- ・管理監督者の指示が、どういう意図で出されているのか分からないときに、質問したり意見を言ったりすることが十分にできない職員がいるので、管理監督者の方が、十分な説明を心がけるようにする。

◎良くできている点

- ・登園を嫌がるが続くなどの問題が生じたとき、管理監督者や同僚の保育士などにその原因や対策の仕方を相談できている。

7. 保育士としての資質向上

●今後の課題とするべき点

- ・保育の悩みや疑問を解決するために、研究・専門書を見つけて、そこから学ぶことができるかについて不十分な場合がある。そのため、研究・専門書から学ぶことの有効性を職員同士でも伝え合う必要がある。

『平成30年度施行保育所保育指針に基づく自己チェックリスト 100(※)』の

実施結果による「保育所の自己評価」 みどり保育園 令和2年度

(※)◎、○、▲、×のいずれかにチェックを入れる形式

◎教育・保育に関して、保育担当者11名の結果(令和2年度は、98項目実施)

I 園の基本姿勢について(5項目)◎と○をつけた職員が67%(①)、
II 第1章 総則(37項目)◎と○をつけた職員が56%(②)、
第2章 保育の内容(33項目)◎と○をつけた職員が52%(③)、
第3章 健康及び安全(13項目)◎と○をつけた職員が51%(④)、
第4章 子育て支援(4項目)◎と○をつけた職員が39%(⑤)、
第5章 職員の資質向上(6項目)◎と○をつけた職員が35%(⑥)という結果になった。

①・・・園の保育理念や保育目標を理解した上での指導計画の立案、保育所としての社会的責任の理解、保育所職員としての心構えについて、全ての分野の中で、最も良い結果となった。

②・③・④・・・◎と○をつけた職員がいずれも50%台で、標準的な結果。新保育所保育指針の詳しい内容について知らなかった部分も少なくなかったようなので、来年度以降も同じチェックリストを使い、結果が改善されるように促していく。

⑤・⑥・・・◎と○をつけた職員が共に30%台で、自己評価が最も低い分野となった。子育て支援と職員の資質向上については、自己評価の詳細をさらに分析し、今後一番力を入れていくべき分野と位置付けて園長・副園長・主任保育士・副主任保育士・専門リーダー・職務分野別リーダーを中心に、全体のレベルアップを図っていく必要がある。

◎食育・食事の提供等に関して、栄養士2名の結果(100項目)

I園の基本姿勢について(24項目)◎と○をつけた職員が65%(⑦)、
II食育の推進(12項目)◎と○をつけた職員が42%(⑧)、
III食事の提供(61項目)◎と○をつけた職員が56%(⑨)、
IVその他(3項目)◎と○をつけた職員が0%、▲をつけた職員が50%、×をつけた職員が50%(⑩)という結果になった。

⑦・・・教育・保育に関する自己評価と同様、全ての分野の中で、最も自己評価が高かった。保育の全体的計画に基づいた食育計画の作成、食事・食育を通した保育所としての社会的責任の理解、保育所職員としての心構えについて、おおむね出来ていると言える。

⑧・・・前述の子育て支援(4項目)で◎と○をつけた保育担当者が39%(⑤)だったが、⑧が42%とやや低めの数字で、共通点を見出すことができる。食育は、広範囲に渡ることから、保護者や地域の多様な関係者との連携が今後さらに求められていると言える。

⑨・・・前述の②・③・④同様、悪くない結果だが、61項目と内容が多岐に渡り、理解が不十分な項目もあったので、今回の自己評価が、通常の業務を見直すきっかけになったのではないかと思われる。

⑩・・・栄養士の専門性を生かした食育計画・指導計画の作成、体調不良・食物アレルギー・障がいのある子どもなどへの個別支援計画の作成と共有、お弁当の日における弁当の内容についての保護者への指導など、栄養士の専門性を問う3項目は、自己評価が最も低かった。この自己評価の結果を受けて、栄養士2名に「栄養士としての専門性とは何か」を考えさせる契機としたい。

『平成30年度施行保育所保育指針に基づく自己チェックリスト 100(※)』の
実施結果による「保育所の自己評価」 みどり保育園 **令和3年度**

(※)◎、○、▲、×のいずれかにチェックを入れる形式で、◎教育・保育
に関して、令和2・3年度共に、保育担当者11名に、98項目で実施した。比
率の前者が令和2年度、後者が令和3年度。

I 園の基本姿勢について(5項目)◎と○をつけた職員が67%、71%(①)、
II 第1章 総則(37項目)◎と○をつけた職員が56%、55.28%(②)、
第2章 保育の内容(33項目)◎と○をつけた職員が52%、48.76%(③)、
第3章 健康及び安全(13項目)◎と○をつけた職員が51%、58.7%(④)、
第4章 子育て支援(4項目)◎と○をつけた職員が39%、41%、(⑤)、
第5章 職員の資質向上(6項目)◎と○をつけた職員が35%、48.5%(⑥)という結果
になった。

①・・・園の保育理念や保育目標を理解した上での指導計画の立案、保育所としての
社会的責任の理解、保育所職員としての心構えについて、全ての分野の中で、最も良
い結果となった。令和2年度と比較し、令和3年度は、×が2個から0個に減り、◎が
9個から11個に増えた。

②・③・④・・・◎と○をつけた職員が、②は55%、③は49%、④は59%となり、前年度
同様、標準的な結果だった。令和2年度は、新保育所保育指針の詳しい内容につい
て知らなかった部分も少なくなかったようだが、令和3年度になると③は、◎が30個
から41個に増え、④は、○が56個から66個に増えており、1年が経過して理解が進ん
だことがわかる。

一方、②の×が、15個から36個に増え、③の×も25個から36個に増えており、1年
間経験を積んだことで、より厳しく自己評価を行ったことが伺える。

⑤・⑥・・・◎と○をつけた職員が、令和2年度は共に30%台で、自己評価が最も低い
分野だったが、令和3年度は、⑤が41%、⑥が48%となり、進歩が見て取れる。×の
個数が、⑤は5個から1個に減少、⑥は12個から6個に減少しており、子育て支援と
職員の資質向上について、職員の自信や手ごたえが増したことが推測できる。

当園の離職率がここ数年減少し、当園における職員の平均勤続年数が長くなってき
ていることで、ノウハウが蓄積されつつあるという良い印象を受ける。

◎食育・食事の提供等に関して、栄養士2名の結果(100項目)

比率の前者が令和2年度、後者が令和3年度。

- I園の基本姿勢について(24項目)◎と○をつけた職員が65%、71%(⑦)、
- II食育の推進(12項目)◎と○をつけた職員が42%、79%(⑧)、
- III食事の提供(61項目)◎と○をつけた職員が56%、71%(⑨)、
- IVその他(3項目)◎と○をつけた職員が0%、67%、(⑩)という結果になった。

⑦・・・保育の全体的計画に基づいた食育計画の作成、食事・食育を通した保育所としての社会的責任の理解、保育所職員としての心構えについて、おおむね出来ていると言える。

⑧・・・令和2年度の42%から79%へと大きく向上し、栄養士の食育への取り組みが、この1年間でさらに強化されたことがわかる。

⑨・・・61項目と内容が多岐に渡り、令和2年度では理解が不十分な項目もあったようだが、今回は2回目の自己評価となり、理解が進んでいることがわかる。

⑩・・・栄養士の専門性を生かした食育計画・指導計画の作成、体調不良・食物アレルギー・障がいのある子どもなどへの個別支援計画の作成と共有、お弁当の日における弁当の内容についての保護者への指導など、栄養士の専門性を問う3項目は、令和2年度に自己評価が最も低かったが、令和3年度は、かなり改善され、良い結果となった。

栄養士2名に関して、1年間でかなりの前進が読み取れる結果となった。

『平成30年度施行保育所保育指針に基づく自己チェックリスト 100(※)』の
実施結果による「保育所の自己評価」 みどり保育園 令和4年度の総括

(※)◎、○、▲、×のいずれかにチェックを入れる形式で、◎教育・保育
に関して、令和2・3・4年度に、保育担当者11名に、98項目で実施した。

比率の1番目が令和2年度、2番目が令和3年度、3番目が令和4年
度。

I園の基本姿勢について(5項目)◎と○をつけた職員が67%、71%、76.3%(①)、
II第1章 総則(37項目)◎と○をつけた職員が56%、55.28%、61.4%(②)、
第2章 保育の内容(33項目)◎と○をつけた職員が52%、48.76%、58.6%(③)、
第3章 健康及び安全(13項目)◎と○をつけた職員が51%、58.7%、58.6%(④)、
第4章 子育て支援(4項目)◎と○をつけた職員が39%、41%、50%(⑤)、
第5章 職員の資質向上(6項目)◎と○をつけた職員が35%、48.5%、48.5%(⑥)とい
う結果になった。

- ① …園の保育理念や保育目標を理解した上での指導計画の立案、保育所としての社会的責任の理解、保育所職員としての心構えについて、全ての分野の中で、最も良い結果である。◎と○を付けた職員の比率が、2年間で徐々に上昇しているのは、職員の定着率が高く、当園での勤務年数が長くなっている職員が多いこと、また、この自己チェックリストの実施が3回目となり、職員一人ひとりの意識が高まってきていることが要因と考えられる。
- ② …総則(37項目)は、1 保育所保育に関する基本原則、2 養護に関する基本的事項、3 保育の計画及び評価、4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項の4つに分かれている。
◎と○を付けた職員の比率が、1回目と2回目では、50%台半ばであったが、3回目にして61.4%となり、かなりの上昇に転じた。通常の保育では、総則に載っている基本原則などは、忘れがちになる可能性があるが、この自己評価を行うことで、重要性を再確認できていると推測される。
- ③ …保育の内容(33項目)は、日々の保育に直結する内容で、◎と○を付けた職員の比率が、約10%増え、上昇率が最も高い項目となった。以前にも増して、ここに挙げられた項目を日々の保育に取り入れ、実践していることが伺える。

- ④ …健康及び安全(13項目)は、職員一人ひとりの危機管理能力が問われる項目が、多く含まれている。◎と○を付けた職員の比率が、前回とほぼ同じ、60%弱になっている。職員一人ひとりが、人任せにせず、高い意識を持ち続けられるように、注意喚起していく必要性を感じる。
- ⑤ …子育て支援(4項目)◎と○をつけた職員が、前回より9%増え、上昇率では2番目位に高い項目となった。当園での勤務歴が長い職員が増え、日々の保育に追われて精一杯になるのではなく、保護者への子育て支援にも意識的かつ意欲的に取り組めるようになってきたと推測できる。保育者に余裕ができれば、保護者への子育て支援も充実してくるはずなので、職員の待遇改善を今後もさらに進めていく所存である。
- ⑥ …職員の資質向上(6項目)◎と○をつけた職員が、昨年と同じ比率で、48.5%となった。新型コロナウイルスの影響で、職員が研修に参加する機会を十分に確保できてないことが、大変残念である。リモートによる研修には参加しているが、新型コロナウイルス感染防止対策に時間を割かなければ状況が続き、時間的余裕はあまりない。研修を受けた職員が、職員会議で発表するなどして職員の資質向上を図っていくことは、今後も続けていく。

<評価方法>

十分理解できている(十分できている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

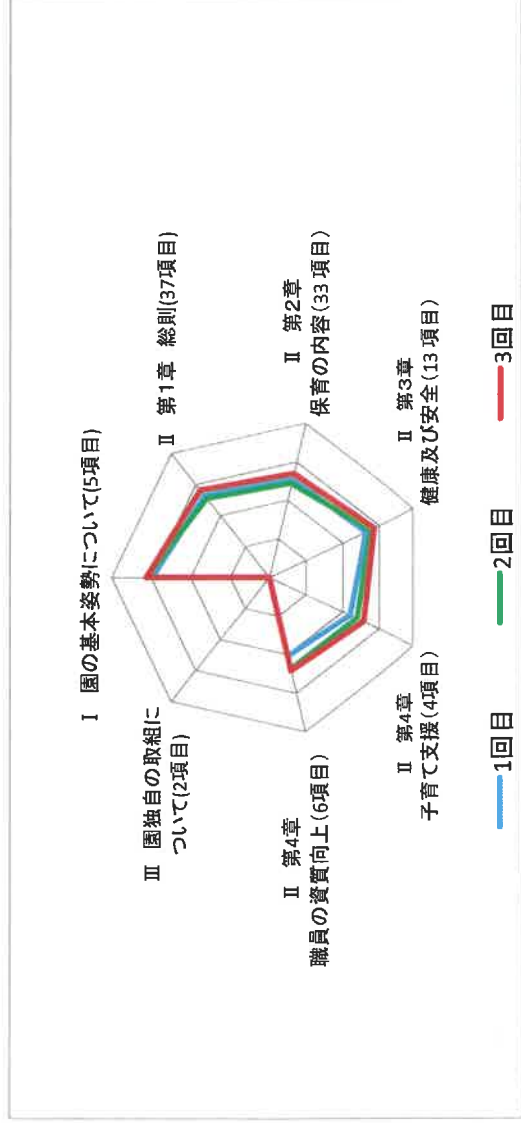
集計結果（チェック3回分）

評価	1回目						2回目						3回目					
	◎	○	▲	×	◎	○	▲	×	◎	○	▲	×	◎	○	▲	×		
I園の基本姿勢について(6項目)	9	28	15	2	11	28	14	0	8	34	11	2	8	34	11	2		
II 第1章 総則(37項目)	40	187	151	15	39	186	133	36	52	198	135	15	52	198	135	15		
第2章 保育の内容(33項目)	30	159	148	25	41	136	137	36	40	173	120	30	40	173	120	30		
第3章 健康及び安全(13項目)	17	56	63	4	18	66	52	4	23	61	54	5	23	61	54	5		
第4章 子育て支援(4項目)	3	14	21	5	3	15	24	1	4	18	20	2	4	18	20	2		
第5章 職員の資質向上(6項目)	4	19	31	12	3	29	27	6	11	21	21	11	11	21	21	11		
III 園独自の取組について(2項目)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

回答人数
入力してください

11 人

レーダー



◎食育・食事の提供等に関して、栄養士2名の結果(100項目)

比率の1番目が令和2年度、2番目が令和3年度、3番目が令和4年度。

I園の基本姿勢について(24項目)◎と○をつけた職員が65%、71%、56%(⑦)、
II食育の推進(12項目)◎と○をつけた職員が42%、79%、37.5%(⑧)、
III食事の提供(61項目)◎と○をつけた職員が56%、71%、73%(⑨)、
IVその他(3項目)◎と○をつけた職員が0%、67%、33%(⑩)という結果になった。

⑦ ……保育の全体的計画に基づいた食育計画の作成、食事・食育を通した保育所としての社会的責任の理解、保育所職員としての心構えについて、◎と○の比率が下がっている。栄養士の業務が、保育と別物で行われるのではなく、保育と密接に関わって行われるように促していく必要がある。

⑧ ……食育の推進(12項目)栄養士も新型コロナウイルスの影響で、保育士同様、研修を受ける機会が減っており、食育がマンネリ化している可能性がある。今後、研修を受ける機会を増やしてマンネリ化を防ぐ工夫をしていく。

⑨ ……食事の提供(61項目)◎と○の比率が、1回目には56%だったが、2回目71%、3回目73%と徐々に上昇している。栄養士・調理員にとっては、最も重要な日々の業務に関する項目なので、高い意識を維持した状態で、業務を遂行していることが伺える。

⑩ ……栄養士の専門性を生かした食育計画・指導計画の作成、体調不良・食物アレルギー・障がいのある子どもなどへの個別支援計画の作成と共有、弁当持参の場合の弁当の内容についての保護者への指導など、栄養士の専門性を問う3項目は、今後の課題となる結果となった。専門性の向上は、一朝一夕には実現できないので、専門家や他園と連携する機会を増やすようにする。

<評価方法>

理解し実施している…◎ 3点 一部実施している…○ 2点 不安がある…▲ 1点 実施していない…× 0点

集計結果（チェック3回分）

評価	1回目		2回目		3回目	
	◎	○	◎	○	◎	○
I 園の基本姿勢等について(24項目)	18	13	22	12	15	12
II 食育の推進(12項目)	4	6	13	6	5	4
III 食事の提供(61項目)	31	38	60	27	62	27
IV その他(3項目)	0	0	1	3	0	2
合計	53	57	96	48	82	45
回答人数	2人		2人		2人	

入力してください

レーダー

